



No.86 2008・2・16

ISHIKAWA-KEN HISTORY MUSEUM

発行 石川県立歴史博物館

〒920-0963 金沢市出羽町3番1号

TEL.076(262)3236 FAX.076(262)1836

<http://www.pref.ishikawa.jp/muse/rekihaku/index.htm>



ISHIKAWA-KEN
HISTORY
MUSEUM

れきはく

企画展

れきはくコレクション 2007



蓮如上人画像

会 期

2月16日(土)~3月23日(日)

会 場 第1特別展示室・第4展示室

開館時間 午前9時~午後5時

(入館は午後4時30分まで)会期中無休

入 館 料 一 般 250円(200円)

大学生 200円(160円)

高校生以下無料

()内は20名以上の団体料金

ハンズオン! 箱の中身は何だろな?
れきはく収藏品にみる収蔵術

会 期 2月16日(土)~3月23日(日)

会 場 第4展示室

内 容 筆筒や長持などの収納用具に触れて、収納の歴史を
探る。

楽しい古文書 コレクション展の文書を読む

日 時 2月23日(土) 午後2時~
3月 5日(水) 午後2時~

会 場 学習ホール

内 容 コレクション展に展示した古文書の解説。

講 師 当館学芸専門員 濱岡伸也

参加費 無料

参加方法 申込不要・当日受付へお申し出下さい。

企画展

れきはくコレクション2007

開催によせて

歴史博物館の大切な責務のひとつに、石川県の歴史と文化にかかわる資料の収集・保存活動があります。この責務をはたすために、昭和四十三年の開館以来、十万余点におよぶ資料を収集してきました。収集資料は、当館の展示活動や体験学習にとどまらず、研究者の学術活動、学校教育、他館の展示活動、歴史図書出版活動など、さまざまな場で活用されています。

今回の企画展では、平成十九年度に収集・保管した寄贈・購入資料のほか、研究用にお借りしている未公開資料もあわせて紹介し、博物館の収集活動にあらためてご理解をいただくことを目的としています。

会期中にはより詳しく資料保存の現状などを知っていただくために、ハンズオン展示・講座・収蔵庫見学会など各種事業もおこなわれますので、是非ご参加ください。ここでは、展示資料のなかから注目されるいくつかを紹介し、企画展のご案内いたします。



和同開珎

和同開珎ノ一点
金沢市三小牛山遺跡の出土品。この遺跡は日本一たくさんの和同開珎が出土したことで知られます。和同開珎が発見されたのは



伝清正公所用鉄鐶



日蓮・清正・天神三尊像

昭和三十二年、三小牛町高山太一氏所有のサコ山から、同氏の子息高山弘氏が薪伐採中に、和同開珎五八〇枚余・金銅鈴・土師器片を偶然見つけました。その後、出土品は国の所有となり、現在は京都国立博物館で保管しています。

今回寄贈されたものは、土地所有者の高山太一氏が発見の記念にもついていた一枚で、現地に残る唯一の資料です。材質は銅。銭文の「開」は隷開で、いわゆる新和同にあたります。山寺を含めた聖地の地鎮に用いられたと考えられます。

今村家資料ノ百二十点

今村家は藩政期、卯辰町にあり、鋳物師を生業とした家です。今回収集した資料は同家の藩政期の生業・生活がうかがえるもので、内容は鋳物師関係、家柄町人関係、日蓮宗関係に大別できます。

鋳物師関係では、慶長十八年(一六一三)の利常からの免状をはじめ、真継家関係の資料、火矢方など職務関係の資料があります。家柄町人関係では、町役人としての職務や華道(池坊)稽古など金沢の町人の実態を把握できる資料があります。

資料の最大の特徴は日蓮宗関係のものです。今村家は日蓮宗の檀家であり、東山の全性寺を檀那寺としていました。信仰資料のなかで注目されるのは加藤清正

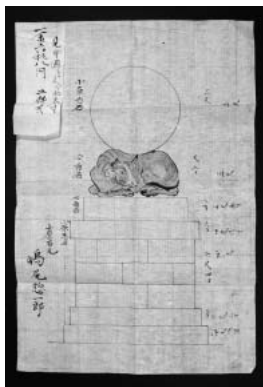
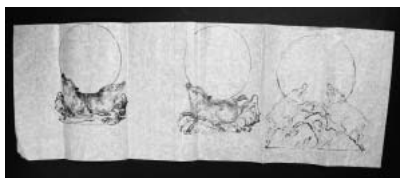
にかかわるものです。日蓮・加藤清正・北野天満宮の三尊をまつった厨子、清正所用と伝えられる鉄鐶、清正の手形、清正像を写した掛軸など、興味深い資料が数多く含まれています。

加藤清正にかかわる資料が多いのは、十九世紀にはいり、日蓮宗で加藤清正(彼は熱烈な日蓮宗の信者でした)を崇敬する動きが活発化したためです。金沢では東山の全性寺などが清正公信仰の中心となりました。当該資料は金沢における清正公信仰の実態解明に大きく寄与するものと思われま

正賢寺資料ノ三十八点

小松市にあった浄土真宗正賢寺(東)が所蔵していた資料。同寺は、住職不在が続いたため平成十九年六月に宗教法人を解散し、本尊などは東本願寺へ返納しました。その際、檀家衆から歴史的価値の大きい資料について、歴史博物館での保存・活用を図りたいとの要望があり、小松教務所の仲介を得て寄贈を受ける運びとなりました。

内容は、蓮如上人画像、同裏書、六字名号、実如証判御文、証如証判御文、教如上人御消息など、東西分派(江戸時代)以前の浄土真宗資料が過半を占めます。とくに注目されるのは、蓮如上人の画像です。寺伝では蓮如上人の寿像(生前に描かれた像)とされます。その根拠とされているのは別に伝来する裏書に、「文明二歳庚寅五月廿八日 釈蓮如 五十六歳 願主釈性賢」とあり、蓮如の没年の明応八年(一四九九)に先立つ、文明二年(一四七〇)の年紀を有しているからです。しかし、この画像と裏書が一体のものという考え方に對しては、「釈蓮如」の署名の相違から疑問視する向きも多く、判断は今後の研究に待つことになります。



記念碑下図(上下とも)

『広益英倭字典』にかかわった人々との交流の様子もつかがえる資料として注目されます。

金沢の洋学者大屋愷故の功績を顕彰するため兼六園内に建設された記念碑に関する資料。記念碑は、学校の同僚や教え子の尽力により、明治三十七年、兼六園内の金沢神社脇に建設されました。
大屋愷故は天保十年(一八三九)金沢生まれ。安政元年(一八五四)京都に游学し、同五年に帰国。慶応元年(一八六五)に壮猶館翻訳方に任せられ、以降要職を歴任し、活躍しました。『広益英倭字典』の編者のひとりとして、廃藩置県以後も深く学事に関係し、『金沢名数』『加賀地誌』等多数の著作を残しました。明治三十四年(一九〇一)没。享年六十二歳でした。資料の内訳は、石碑の建設願書や下図、見積書などからなります。記念碑の建設にかかわる経緯のほか、『広益英倭字典』にかかわった人々との交流の様子もつかがえる資料として注目されます。



記念碑(兼六園内)

大屋愷故記念碑関係資料 / 二十四点

平成19年度収蔵資料一覧(平成19年2月~20年1月末現在)

資料名	点数	寄贈者(敬称略)
歴史資料		
刀箱	1	金沢市 本西武
金沢市内地鎮祭写真	1	金沢市 本西武
昭和15年豪雪記録絵葉書	13	金沢市 細谷外芳
今村家資料	120	購入
芭蕉二見文台写	1	購入
新筋入り銃弾薬包み紙	3	金沢市 道法外雄
南天に子犬図	1	金沢市 本西武
龍図	1	金沢市 本西武
無学愚禅書	1	金沢市 本西武
黒漆塗学校横目所箱	1	金沢市 本西武
舞鶴女子挺身隊宛書簡	16	白山市 本谷文雄
前田利為等画賛	1	金沢市 本西武
映画プレスシート他	15	珠洲市 次郎間玲子
上級加賀藩士邸宅図	1	金沢市 本西武
志賀範之関係資料	120	大阪府 志賀軌之
翼賛壮年団粟津校下分団旗	1	小松市 橋本巖夫
大丸呉服店風呂敷包箱	1	金沢市 松田悠美
灯火管制用灯火カバー	6	金沢市 御園直太郎
紀元二千六百年記念日本万博入場券	1	能登町 根畑 博
日中戦争駐留軍撮影写真	40	金沢市 法村龍夫
大屋愷故記念碑関係資料	24	加賀市 田嶋正和
北安江生産組合文書	223	金沢市 土本毅
耕地整理組合地区確定図	1	金沢市 土本毅
生産組合事務所看板	1	金沢市 土本毅
シベリア派遣記念写真帳	1	金沢市 小杉利男
上海派遣軍派遣記念帳	1	金沢市 小杉利男
陸軍大写真帳	1	金沢市 小杉利男
出征幟旗	2	金沢市 山内作栄
陸軍省敷地境界石柱	1	金沢市 岡山生八
民俗資料		
鰯網	1	輪島市 西出藤一郎
鯖網	2	輪島市 西出藤一郎
刺し網用アバ	60	輪島市 西出藤一郎

資料名	点数	寄贈者(敬称略)
刺し網用浮き樽	3	輪島市 西出藤一郎
台切鋸	1	白山市 北坂猛
カメラAIRES35- B	1	金沢市 嶋田千鶴子
カメラFLASH FUJICA	1	金沢市 嶋田千鶴子
刃ガマ	1	内灘町 西村康二
草刈りガマ	1	内灘町 西村康二
蛙づくり用杵	2	内灘町 西村康二
蛙づくり	1	内灘町 西村康二
蛙づくり用縄	1	内灘町 西村康二
ナタガマ	1	内灘町 西村康二
ガンガン	1	内灘町 西村康二
洗い籠	1	内灘町 西村康二
フッカゴ	1	内灘町 西村康二
三角ダモ	1	内灘町 西村康二
婚礼用御櫃	1	内灘町 西村康二
コシアテ	1	内灘町 西村康二
バンドリ	3	内灘町 西村康二
トオシ	1	内灘町 西村康二
オアシ	1組	輪島市 森山庄五郎
ワク	1	輪島市 森山庄五郎
エブリ	1	輪島市 森山庄五郎
マンガ	1	かほく市 奥村国男
木製看板「紫雪」「烏犀圓」	1	購入
木製看板「混元丹」「賢心丹」	1	購入
美術品		
和泉守兼定作刀	1	金沢市 今井清幸 今井清博
桜花に流木模様鏡	1	購入
刺繍松竹梅に鶴亀文打掛	1	金沢市 若狭り子
刺繍富士に海浜文打掛	1	金沢市 若狭り子
正賢寺資料	38	小松市 佐々木五六
考古資料		
和同開珎	1	金沢市 西村祐三
総計	735	

平成十九年度の 展覧会を振り返って

平成十九年度開催の展覧会は、特別展三回のほか、企画展三回、石川県立美術館リニューアル休館にもなう石川県立美術館コレクション展(第一特別展示室・二回、第二特別展示室・三回)や貸館展示など、多彩なラインナップでくりひろげられました。

年度当初の慌しさが過ぎ、小・中学生の遠足で賑わう時期に春季特別展「昭和ワンダーランド モノでたどる戦後」(四月二十一日～五月二十七日)を開催しました。一、戦後の流れ 玉音放送から天皇崩御まで、二、暮らし 豊かさ と便利さを求めて、三、娯楽 あの時、夢中になったもの、という三本の柱で構成。第一特別展示室で、一九六一年・約二万点の資料が所狭しと展示された会場は、昔懐かしいレトロな昭和一色に包まれ、子供から大人まで、不思議な昭和のモノが魅力に酔いしれました。

会期中、記念講演会一回、昭和講座一日二回、列品解説二回、テーマに因む、れきはくゼミナール一回、それに第四展示室で、「懐かし家電ペーパークラフト」「昭和のシンボルトワーを作ろう」「紙製おもちゃの世界」などの昭和ワークショップを実施しました。

白山の山開きも過ぎ、家族連れで賑わう時期に夏季特別展「石川・福井県文化交流企画」「白山 聖地へのまなざし」(七月二十一日～八月二十六日)を開催しました。一、山林修行の世界、二、白山登拝の世界、三、中世神話のなかの白山信仰、四、白山信仰の仏神像、五、白山争論、六、登拝・参詣・遊覧の六本の柱で構成。第一・第二特別展示室を使用し、重要文化財の白山三社神像(白山比咩神社蔵)を始めとする加賀馬場に伝わる資料を中心に、越前・美濃の関係資料も加え、白山の魅力と、培われた歴史と文化に理解を深める目的で、重要文化財十四点を含む一四六件・約三百点を公開しました。白山に関心が高まっている時期だけに、地元

はもろろん、県外からの来館者もずいぶん目立ちました。

会期中、白山講座として記念講演会二回とテーマに因む、れきはくゼミナール二回、それに第四展示室や休憩コーナーを中心に、関連企画「木村芳文写真展」「白山」を開催し、白山の四季の姿を紹介しました。

秋の虫の音が奏でられる頃、秋季特別展「石川のお宝史 名宝から文化財へ」(九月二十九日～十一月十一日)を開催しました。第一特別展示室を使用し、一、歴博の「お宝」、二、「お宝」の歴史、三、文化財の誕生、四、「お宝」を救うの四本の柱で構成。当館蔵の文化財、「お宝」の「名宝」「秘宝」「珍宝」から文化財にいたる視点の変化、制度としての「文化財」と指定をめぐる視線、「能登半島地震」による救出文化財の状況と課題など、いずれのコーナーも楽しみながらも、文化財に対し考えさせられる内容で、六十五件・約百五十点を公開しました。

会期中、特別講演会(ミュージアムウィーク関連企画)一回、実演!からくり人形(ミュージアムウィーク関連企画)一日二回、テーマに因む、れきはくゼミナール一回を実施しました。

特別展の合間を縫い、企画展と石川県立美術館コレクション展、それに貸館展示を開催しました。「韓国伝統のボジャギと韓流パネル展」(四月十三日～十五日)は、韓国の観光と文化を紹介する「Korea Week 2007 in 石川」の関連展示で、韓国伝統のPATCHワーク「ボジャギ」と結婚式の衣装など百四十点に、韓国ドラマの名場面のパネル約三十六点を貸館展示により開催しました。

企画展「加賀の刀剣」(六月九日～七月八日)は、当館蔵の赤羽刀を中心に石川県立美術館蔵品をも加えて構成。会期中、日本美術刀剣保存協会石川県支部による列品解説が五回行われ好評でした。

石川県立美術館コレクション展「日本の美 人・鳥・花そして風景」(九月四日～二十日)は、同館の古美術から現代までの多彩な蔵品の精華を、表現を重視したテーマにより、第一特別展示室を使用し、四十七点が公開され圧巻でした。また同館コレクション「古九谷と石川の工芸」(九月四日～二十六日、九月二十九日～十月十四日)が、第二特別展示室で開催され、古九谷の迫力ある魅力に圧倒されました。

秋季特別展の後が、「ふれてみるいしかわの文化展」(十一月十七日～二十一日)でした。石川県が推進しているバリアフリー社会づくりの一環として開催され、じかに手で触れて鑑賞できる彫刻や、昔懐かしい生活用品などが展示されました。会期中、「はるかぜ文庫」の朗読会一回が行われました。

石川県立美術館コレクション展の第二弾、「加賀藩の美術工芸と芸術院会員・人間国宝」(十一月二十七日～十二月十三日)は、石川の工芸の奥の深さと厚みを垣間見る内容で、第一特別展示室を使用し、六十九点が公開されました。また同館コレクション「古九谷と石川の工芸」(十月十六日～十一月十一日、十一月十四日～三十日)が、第二特別展示室で開催されました。

新年を迎えて始まった企画展「新春を祝う 干支とお正月」(一月四日～二月三日)は、当館蔵品の中から、一、初笑い、二、干支と暦、三、武家の正月、四、正月の遊び、五、正月の民俗、六、年賀切手と郷土玩具、七、天神堂の柱で構成。正月習俗や干支に関する歴史資料、正月にふさわしい吉祥の絵画や文芸資料など、約百件・二百点を公開しました。

一月四・五・六日に「懐かしの福茶を飲もう」のサーブと「べんたい作り」、また会期中、「自分の干支を描いてみよう」「天神堂を組み立てよう」「福笑いをやってみよう」「羽根突きをやってみよう」などのワークショップ、それにテーマに因む、れきはくゼミナール一回を実施し、大変好評でした。

企画展「れきはくコレクション2007」(二月十六日～三月二十三日)は、平成十九年度に収集・保管した寄贈・購入資料のほか、研究用にお借りしている未公開資料をも紹介し、博物館活動に理解を深めていただく目的で、約三百点を公開します。

会期中、「ハンスオソン!箱の中身は何だろな? れきはく収蔵品にみる収蔵術」「楽しい古文書 コレクション展の文書を読む」などのワークショップ、それにテーマに因む、れきはくゼミナール一回、また収蔵庫見学などを実施します。同展の会期中から、第二特別展示室で、石川県立美術館コレクション「古九谷と再興九谷」(三月一日～二十三日、二十六日～三十一日)が開催されます。

(学芸主幹 北春千代)

第1回石川の歴史遺産セミナー開催



一月十三日、第一回石川の歴史遺産セミナーを開催。テーマは「山とくらし」新しい歴史像を求めて」とし、近年注目され始めてきた山村研究の成果を取り込み、様々な視点から山村の生活文化を考えることなどを目的とした一般参加の公開セミナーです。関係の研究者はもとより、一般市民の関心は高く、約八十名の参加があり、活発な意見が交わされました。

十一月七・八日の二日間、秋のバスツアーを実施。今回は当館初となる一泊二日の行程で、群馬方面へと足をのばし、加賀藩と縁の深い旧七日市藩（群馬県富岡市）と世界遺産暫定リストに登録された富岡製糸場などを訪問しました。旧七日市藩は、前田利家の五男利孝を初代藩主とし、その陣屋跡は県立富岡高校敷地内にあります。石川から遠く離れた地で再会した梅鉢文を前に、ご参加の皆さんも感無量の様子でした。

秋のバスツアー 旧七日市藩への旅



十一月七・八日の二日間、秋のバスツアーを実施。今回は当館初となる一泊二日の行程で、群馬方面へと足をのばし、加賀藩と縁の深い旧七日市藩（群馬県富岡市）と世界遺産暫定リストに登録された富岡製糸場などを訪問しました。旧七日市藩は、前田利家の五男利孝を初代藩主とし、その陣屋跡は県立富岡高校敷地内にあります。石川から遠く離れた地で再会した梅鉢文を前に、ご参加の皆さんも感無量の様子でした。

催事日録

新春企画展関連行事として、ペンダイ作り同様一月四日から六日までの三日間、昔懐かしの「金沢の福茶」が、来館者に振る舞われました。番茶と山椒（または黒豆）を煮出した金沢の福茶は、年越し（大晦日、一月六日と十四日、節分）に口にされているもので、杓子でくみ上げるお茶に山椒が混じると「福が入る」といわれています。山椒入りの独特な風味を楽しみながら、皆さん「福」をすくい取っていただけたでしょうか。



とは、金沢で戦前の頃まであった、正月に飾る縁起物です。珍しさもあってか年末から問い合わせが相次ぎ、会場となった第四展示室は初日から満員盛況。観光客やご家族そろっての参加もたくさんあり、昔の金沢の正月を十分に満喫していただきました。



新春企画展関連のワークショップとして、一月四日から六日までの三日間、「ペンダイ」作りを開催しました。「ペンダイ」

「福茶」で今年は幸せに

昔なつかし「ペンダイ」作り

行事日録 (3月)	
月日	行事内容
3/2 (日)	常設スポット解説 高度成長時代(資料課長 本谷文雄) (企画展関連行事「収蔵庫見学会」もあわせて実施予定)
3/15 (土)	れきはくゼミナール (学芸員 大井理恵) (企画展関連行事「収蔵庫見学会」もあわせて実施予定)


開講時間：午後2時
会場：常設スポット解説：第2展示室
れきはくゼミナール：学習ホール
受講料：無料
常設スポット解説は無料ですが、他の展示もあわせて観覧の場合は入館料が必要です。
申し込み：不要
当日受付へお申し出下さい。

次回の展覧会


石川県立美術館コレクション展
古九谷と再興九谷

3月1日(土)～3月23日(日) 第1特別展示室
3月26日(水)～3月31日(月) 第1特別展示室

江戸時代前期に九谷(現石川県加賀市)で製作された色絵磁器「古九谷」と、古九谷窯廃絶後の江戸時代後期に製作された「再興九谷」の各名品を紹介します。



鉢 平角 花鳥割壺 色絵
古九谷
石川県立美術館蔵



皿 角 人物象 色絵
吉田屋 窯
石川県立美術館蔵

展示替えによる休館日 (2～3月)

2月14日(木)～15日(金) 2日間
3月24日(月)～25日(火) 2日間

れきはく
トリヴィア

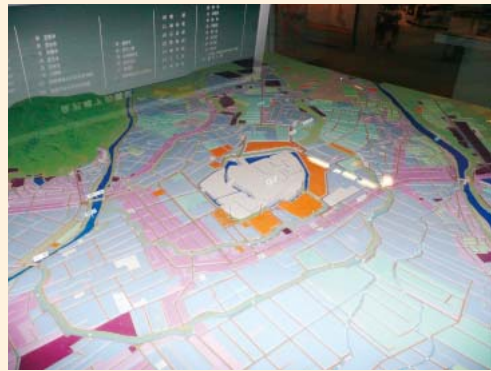
城下町金沢模型

当館は開館して二十二回目の正月を迎えました
が、前身の郷土資料館時代（昭和四十三年十一月～
六十一年三月）のことは覚えておられるでしょうか。
そう、あの旧制第四高等学校校舎（金沢市広坂）が
旧石川県立郷土資料館でした。歴博と同じ重要文化
財の赤煉瓦建造物で、なかなか風格ある近代建築遺
産です。現在ここは石川近代文学館（休館中・今年
四月に「四高記念文化交流館」としてリニューアル
オープン予定）となっています。



城下町金沢模型（第2展示室）

さて、この郷土資料館時代から来館者に親しまれ、
今なお当館展示室で現役選手として活躍する強者が
いるのです。その名は、「城下町金沢模型」。第2展
示室（第一
棟二階）へ
入ってすぐ
正面に鎮座
しています。
金沢の城下
町は寛永年
間の二つの
大火をきっ
かけに、居
住地域の大
がかりな整



備が行われてき
ました。この模
型は、ちょうど
町の様子が落ち
着いてきた頃、
延宝八年（一六
八〇）に描かれ
た「金沢城下図」
をもとにして縮
尺約二千分の一
で表しており、
ここからはいろ

いろな時代の金沢が見えてくる優れモノです。郷土
資料館時代はカラータイトルの絵図が点滅するだけで
したが、昭和六十一年の歴博開館を機に、大幅に改
良が加えられました。たとえば「尾山八町」や「八
家屋敷」「前田家ゆかりの五社」などといった項目
について、それぞれの配置や区画が電光パネルとカ
ラタイトルで同時に示され、その点滅の仕方にも工
夫を凝らしています。さらに時代による移動や変更
も分かりやすく表示しています。

この再整備からも、はや二十年以上が経過。この
間の博物館用視聴覚機器の進歩には目覚ましいもの
があります。とはいえ、ゲーム機器に手慣れた小中
学生たちも、この模型を取り囲み、熱中している姿
をよく目にします。郷土資料館開館当初から四十年
近く働き続けている「城下町金沢模型」、まだまだ
元気です。

トリヴィア＝雑学的な事柄や知識、豆知識

平成二十年度れきはくメイト

会員募集!!

対象 なたでも入会できます。
期間 平成二十年四月一日～二十一年三月三十一日（一年間）
会費 年額一〇〇〇円
特典 広報誌「石川れきはく」、「れきはくメイト情報」ほか各種
催し物案内が随時送付されます。また新年度から会員証の
提示により、常設展の入場が無料（特別展開催時は団
体料金）になるほか、「歴史散歩」や「バスツアー」など
当館主催の各種行事に参加できます。
入会受付 二月上旬より随時受け付けています。ご希望の方は申込用
紙に所定事項をご記入の上、会費を添えて当館総合カウ
ンターへ直接お申し込み下さい。郵送でお申し込みの場合は
現金書留か定額小為替でお願いいたします。申込用紙は当
館ホームページからもダウンロードできます。
申し込み・お問い合わせ先 当館普及課 TEL〇七六 二六一 三三三六



昨年春の歴史散歩



平成20年度会員証



昨年秋のバスツアー

本多の森から

年末の休館期間中は、恒例の展示室大掃除。久しぶりに白山麓民
家（第3展示室）を担当したのですが、梁や棚、民具などのホコリ
を払いながら、ふと民俗資料収集家のIさん（故人）のことが思い
出されました。二十年以上前の開館直前の頃、連日熱心に展示指導
を下さった方です。生活感をリアルに出すために、細部にまで
頑固にこだわっておられましたね。仕事が深夜にまで及び、夜中に
加賀市のご自宅まで車でお送りしたことも幾度か。すべての作業が
終わったあの夜の、Iさんの満足そうな笑顔が忘れられません。